

HAMANAKO BIBLE CAMP

浜名湖バイブルキャンプ 浴室・トイレ 新築改修工事 プロジェクト



浜名湖バイブルキャンプを愛する皆さまへ

教団のキャンプミニストリーの一翼を担う浜名湖バイブルキャンプ（以下、HBC）に対し、日頃より主にある祈りとご支援をいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

私たちが心から愛するこのキャンプ場は、これまで幾世代にもわたって、神の家族が集い、神のことに耳を傾け、交わりを深め、信仰に目覚める恵みの場となってきました。この場所で救いにあずかった方、献身を決意された方、信仰の第一歩を踏み出した方たち...その一人ひとりの歩みが、主のご計画の中で今も豊かに実を結び続けています。

しかしながら現在、この大切な場所は老朽化という現実的課題に直面しています。特に浴室やトイレといった基本的な設備の劣化が顕著で、

「浴室が寒く、入るのに躊躇してしまう」「トイレや脱衣所が暗く、清潔感に欠ける」

「お湯がすぐに出ず、使いづらい」「施設の状態が気になり、キャンプへの参加をためらってしまった」

といった率直な声が利用者から実際に寄せられています。こうした環境は、安全性や快適性の面で支障をきたし、結果として利用者の減少や貸出利用の低迷へとつながっています。直近数年間で収入はピーク時と比べて30%以上減少しており、このままではキャンプ財政の維持が困難になる可能性があります。

けれども、私たちはこの現実を単なる「危機」としてではなく、「転機」として信仰をもって受けとめました。なぜなら、このプロジェクトは単なる修繕・美化事業ではなく、次世代の福音宣教のために器を新たに整える「霊的建設プロジェクト」であると信じているからです。



なぜ、いまこのプロジェクトが必要なの？

1 次世代に向けた場として

HBCは、これまで多くの子どもたち、青少年がキリストの福音に触れ、信仰を告白し、献身へと導かれてきた場所です。この場があったからこそ、日常から一歩離れ、みことばに耳を傾け、神の語りかけを受け止め、人生の大切な決断へと導かれた方々が数多くいます。ある者は初めて主イエスを救い主として受け入れ、ある者はキリスト者としての自覚を新たにされ、ある者は主に立ち返り、ある者は献身への召しを確信し、将来を主にささげる決意を新たにしました。教会の垣根を越えた交わり、同世代の信仰の仲間との出会い、献身者との分かち合い...そうした経験の積み重ねが、若者たちの霊的成長を力強く支えてきました。

このキャンプ場は、単なる宿泊施設やレクリエーションの場ではなく、信仰が芽生え、育ち、実を結ぶための霊的土壌です。だからこそ、今この場を整えることは、次世代への信仰継承と献身者育成という教会と教団の使命を担う、極めて重要な土台を築くことに他なりません。

2 献身者発掘の場として

昨今、同盟教団における深刻な課題として、献身者不足や教師の減少が挙げられています。HBCが担うキャンプミニストリーは、こうした問題を一足飛びに解決するものではありませんが、それを改善する非常に大きな可能性を秘めた宣教的取り組みの一つです。実際、HBCにおいて救われ、信仰を持ち、やがて献身へと導かれた者たちの証しは数多くあります。キャンプの場が「召しを聞く場」「応答する場」として今後ますます用いられることを願っています。一方で、HBCから物理的距離のある教会にとって、このプロジェクトは「キャンプ場が困っている」という限定的な課題と受け取られ、当事者意識を持ちにくいという声も聞かれます。しかし、すでに兼牧の増加や将来的に教会の合併・解散が現実味を帯びる中で、教師の確保が困難となる事態の影響は、キャンプ場の距離を問わず、教団全体/全教会に波及する共通課題です。だからこそキャンプミニストリーを単なる施設維持の問題としてではなく、次世代の献身者を発掘する場として、教団全体が共に担うべき働きとして捉え直す必要があるのではないのでしょうか。

3 未信者との接点の場として

HBCは、教会に馴染みのない未信者にとっても、福音に出会う貴重な入り口となってきました。特に、「教会には行かないけれど、キャンプには参加する」という人たちの姿は珍しくありません。HBCが提供するプログラムを通して、聖書のメッセージや賛美、証しを聞く機会が自然なかたちで提供され、また、聖書的価値観に基づいた温かい人間関係、祈りに備えられたプログラム、奉仕者の献身的な関わりによって、未信者が心を開きやすい「安心の空間」が形づくられてきました。だからこそ、水回りの不備や設備の老朽化が、信仰以前の段階で利用者の「不安」や「不快感」となってキャンプ参加の障壁になることは決して小さな問題ではありません。より多くのたましいがキリストの福音に触れるための備えとして、このプロジェクトは宣教の拡大に直結する大きな一歩です。



初期の宣教師の子どもたち



前HBC管理人の矢作学兄



佐藤師夫妻と現HBC管理人
の鶴木ご夫妻

HBCは、信仰者が互いに励まし合い、養われ、再び主の前に立ち上がるための霊的なオアシスでもあります。教会生活やそれぞれ遣わされている場所において、さまざまな重荷、責任、働きを担っている信徒が、ひととき場所を移し、静まってみことばに耳を傾け、祈りのうちに主と深く交わる中で、霊的な回復や新たな力をいただく...それはHBCならではの役割の一つです。また、世代や教会を越えた信仰者同士の出会いと交わりは、それぞれの信仰を豊かにし、視野を広げ、互いの奉仕や教会形成をも支える霊的ネットワークの形成につながってきました。ここで出会った信仰の友との交わりが、生涯の信仰生活にとって大きな励ましとなっている方も多くいます。しかし、現状の施設環境では、年配者や身体的に配慮を必要とする方々、小さなお子さんを持つ保護者にとって快適に滞在できるとは言い難い状況があります。誰もが安心して参加し、信仰を分かち合い、共に祈ることのできる環境を整えることは、「キリストのからだ」である教会の交わりと一致を支援する具体的な備えと言えるのです。

HBCは、福音に初めて触れる人々だけでなく、信仰や教会から離れてしまった方々が再び主の御許へと立ち返る「信仰の回復の場」としても、大切に用いられてきました。「もう一度だけ、あのキャンプに行ってみよう」—そうして訪れたたましいが、主の愛に触れ、悔い改めと再決心、再献身へと導かれた恵みの証しは幾度となく与えられています。主催キャンプへの参加には踏み出せなかったものの、オフシーズンにふと一人で訪れ、静けさの中でみことばと祈りに導かれ主に捉えられた方もおられます。

この場所を「たましいの故郷」と感じている人々がいます。「あのキャンプに行ってみよう」と主催キャンプに惹かれて来る人もいれば、「あのキャンプ場に行ってみよう」と、場所そのものに慰めと導きを感じて戻って来る人もいます。HBCは単にプログラムを提供する施設ではなく、失われたたましいが帰ってくる場所であり、信仰の旅路において主に立ち返り、再び遣わされていくための「器」なのです。だからこそ、祈りが積み重ねられ、御霊の臨在に満ちたこの場所に、誰もがためらうことなく戻って来られるよう、器としての施設を整える必要があります。迷い出た一人を探し求める主イエス・キリストに倣い、私たちもこの浜名湖バイブルキャンプ場を「帰ってくる場所」「回復の場」として、将来にわたって豊かに用いられ存続できるように、このプロジェクトを通して器を整えていきます。

プロジェクト概要



- ・工事内容：浴室棟の新築およびトイレ棟の改修

総事業費：5,500万円

(内訳：浴室棟新築 4,500万円、トイレ棟改修 800万円、設計・諸費用200万円)

- ・実施体制：プロジェクト委員会（建築の専門家と緊密に連携し推進します）

委員長：加藤 一也 委員：漆間 英幸、菊池 充、蓮井 康人

- ・今後の予定：資金調達の進捗と並行して、現地調査、設計、業者選定を順次進めてまいります。必要な資金が備えられ次第、施工・竣工へと段階的に進行します。現場の老朽化は深刻な状況にあり、可能であれば2026年度中の着工を切実に願っております。皆様のお祈りとご支援によって、この時期が早められますよう、心よりお願い申し上げます。
- ・献金の振込方法は右のQRコードを読み込むか、ホームページ（<http://www.hbcamp.com/>）をご覧ください。お手数ですがよろしくお願いします。



浴室にはひび割れや隙間が多数あります。男性浴室の蛇口は2つだけです。

これまでのHBC

SAMJの時代 ※SAMJ：「在日スウェーデンキリスト教同盟宣教師団」の略
1953年夏 東海地区同盟教会第1回バイブルキャンプ (浜名湖館山寺)
1954年 鳥羽山公園 (天竜) にてキャンプ開催
1955年 桜淵公園 (新城) にてキャンプ開催

東海ブロックの時代

1967年 浜名湖バイブルキャンプ用地 520坪 購入
1973年 東海ブロックの諸教会による浜名湖バイブルキャンプ開始
旧チャペル献堂 (司式：安藤仲市師)
1991年 第41回教団総会で浜名湖スウェーデン学校購入議案が可決された
1992年 スウェーデン学校土地建物を購入 / 浜名湖バイブルキャンプ (東海ブロック所有) と一体化し、
施設名を「浜名湖レーゲルゴード」(スウェーデン語でキャンプまたは研修施設) として使用開始
2000年 増改築が完了し、浜名湖レーゲルゴードは浜名湖バイブルキャンプ施設と一体
(所有が東海ブロックから日本同盟基督教団に譲渡)
浜名湖バイブルキャンプ委員会 (教団委員会) が新たにスタート
2001年 改装工事完了 (21世紀キャンプ伝道献金第1期工事)

宣教区の時代

2009年7月 新チャペル献堂 (司式：中谷美津雄師)
2013年7月 キャンプ伝道60周年 / HBC40周年を迎える
2025年7月 キャンプ伝道72周年 / HBC52周年を迎える



祈りとご支援のお願い

この働きは、私たち数名の手では到底成し遂げられません。これは、「共なる宣教」—共に祈り、共に担い、共に福音の実を刈り取る同労者たちとの協力によって完成される働きです。諸教会、信徒一人一人の信仰の種蒔きがあって初めて現実となるプロジェクトです。

どうか、主からの導きをもって、このプロジェクトを覚え、祈り、具体的なささげものによってご協力くださいますように。キャンプ場という「場づくり」は、単なる建築ではなく、福音宣教そのものです。
※献金のお振込先は内側3ページ目下部をご覧ください。

結びに

「福音のために、新しい器を」

このスローガンのもと、次の時代に向けてのキャンプ宣教を共に担っていただきたいと願っています。私たち委員会は、このプロジェクトの実現にあたり、皆さまの祈りとご協力を心よりお願いしています。しかし、誤解を恐れずに申し上げるならば、これは単なる支援の「お願い」ではありません。むしろこの働きは、荒廃したエルサレムの城壁再建に立ち上がった人々が「この良い仕事に着手した」(ネヘミヤ記2章18節) ように、神ご自身が私たちが神の働きへ「招いておられる」のだと捉えています。

「また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいます。」 ピリピ人への手紙 4章19節

このみことばを信じて、私たちは信仰をもって一步を踏み出しました。どうかこの恵みの働き、そして福音宣教のためのこのプロジェクトに、お一人でも多くの方が祈りと具体的な献金をもって加わってくださいよう、心より願っております。

HBC 浴室・トイレ新築改修委員会
委員長 加藤 一也